

令和4年度 豊かなむらづくり全国表彰事業
東北ブロック受賞事例の概要

【農林水産大臣賞】

農地を守り、地域の農業・農村を次代につなぐ

○団体名 のうじくみあいほうじん 農事組合法人しみず（代表理事 いしやま 石山 ようこ 容子）

○所在地 ひろまきし 青森県弘前市

○むらづくりの背景・経緯

弘前市清水地区は、りんごと水稲の複合経営が多い、積雪寒冷の農村地帯であり、平成20年代以降は、人口減少や高齢化の進行により、水田等の耕作放棄の増加や地域行事中止など、農村機能の維持が難しい状況になっていた。

こうした中で、地区の将来に危機感を感じた若者3名が、それまでの職を辞して、平成23年に「弘前清水みらい組合」（当法人の前身組織）を設立し、遊休農地の再生から地域の暮らしを守る取組へと発展する、地域で支え合う持続可能なむらづくりの活動を始めた。

○むらづくりの内容

（1）農業生産面

遊休農地の再生や農地の集積を積極的に図り、地域の約8割の水田を集約した大豆の大規模生産を実現した。このため複合経営の農家は水田を預けることでりんご生産に集中でき、地域全体での生産体制の効率化と、遊休農地の発生防止につながっている。

また、野菜の生産にも取り組み、地域の女性や高齢者、障害者の雇用を生み出したほか、遊休化していた施設を活用したりりんごジュースの加工作業の受託を始め、りんご農家の6次産業化を後押しし、冬場の新たな収入源となっている。

さらに、地域の若手農業者を対象とした栽培技術や経営管理に係る「勉強会」の開催や、新規就農者への技術指導、スポーツ少年団などを対象とした農作業体験会を開催し、持続可能なむらづくりを見据えた担い手の確保・育成に取り組んでいる。

（2）生活・環境整備面

当法人が中心となって、同地区の久渡寺山周辺の観光・文化的資源、地域の産業を総合的に発信する新たなイベントを開催し、地域内外の交流の場が生まれたほか、子供達が地域資源に触れる機会になり、地区の活性化と地域資源の次代への継承につながっている。

また、これまで農家だけで行ってきた畦畔や土手等の草刈りを、地域住民も交え、地域全体の環境整備活動として実施している。

さらに、当法人の農業機械等を活用し、一人暮らしの高齢者宅や農道の除雪を無料で実施し、地域住民の生活支援につながっている。



しみずのスタッフ

令和4年度 豊かなむらづくり全国表彰事業
東北ブロック受賞事例の概要

【農林水産大臣賞】

ささえあいから花開く日向

○団体名 日向^{にっこり}コミュニティ振興会（会長 小松^{こまつ} 幸雄^{さちお}）

○所在地 山形県酒田市

○むらづくりの背景・経緯

酒田市日向地区は過疎化・人口減少の進行に伴って日向小学校が閉校となり、住民の間には地域が廃れてしまうのではとの危機感が生まれていた。市の施策により公民館を廃止しコミュニティセンター（以下、「コミセン」とする。）へ移行する年と閉校が重なったことで、旧小学校をコミセンとして平成21年から再活用することとなった。

「地域が一体となり、支え合い、助け合い、誰もが安心して暮らし続けることができる日向地区」を目指し、振興会を中心にワークショップ形式での話し合いを重ね、地域の課題解決に取り組んでいる。

○むらづくりの内容

（1）農業生産面

地域の農業法人から土づくり指導を受けている移住者に対し、地域伝統野菜研究会への入会案内を行うなど、地域の案内役になっている。また、令和4年にはお米づくりのお手伝いワークショップを開催するなど、農作業を通じて「中山間地域における農業」への理解を広げる取組を行っている。

（2）生活・環境整備面

①人が集う場所づくり

コミセン内のカフェ「日向里（にっこり）かふえ」では、「日替わり店長」方式で、地域のお母さん達、大学生、地区の飲食店等の幅広い年代が活躍できる場を作り、産直・手作り雑貨コーナーでの農産物や加工品・住民の作品販売など、経済・生活面への支援を行っている。

また、店舗までは足を運びにくい中山間地の住民へは、企業の移動販売の取組と連携し、暮らしの安心と楽しさを届ける取組を支援している。

②除雪ボランティア

地域住民だけでは十分な除雪作業をすることが困難な状況であるため、除雪ボランティアの取組を平成24年度から行っている。

③ふれあい給食

年6回、高齢者世帯へ弁当の配食を行っている。高齢者への声掛け・見守り活動も兼ねており、高齢者の日常生活を支える仕組みとなっている。



にっこり
日向里かふえスタッフ

令和4年度 豊かなむらづくり全国表彰事業
東北ブロック受賞事例の概要

【農林水産大臣賞】

奇跡の赤カボチャを町の至宝へ！

○団体名 おくあいつかねやまあか 奥会津金山赤カボチャ生産者協議会（会長 あおやぎ いちじ 青柳 一二）

○所在地 かねやままち 福島県金山町

○むらづくりの背景・経緯

金山町は、豪雪地帯の中山間地域であり、平坦な土地が少ないなど農業生産条件の厳しい地域である。主要産業の衰退などにより人口減の一途をたどり、全国でもトップレベルの高齢化率となっている。

協議会は、①特産品の開発・生産、②特産品の生産をとおしたコミュニティづくり、③農作業による健康長寿の町づくり、④特産品生産による都市との交流を目的に、地域で生産されていた「赤カボチャ」によるむらづくりを行ってきている。

○むらづくりの内容

（１）農業生産面

品質と生産量の確保のため、優良種子供給と出荷規格の統一、課題解決、コミュニティの場として、協議会が平成20年に設立された。町、県（金山普及所等）、JA会津よつばが協力して生産拡大や品質向上、販路拡大を支援している。また、①有害鳥獣対策、②食味の判断方法、③栽培方法の再検討、④類似品対策等の課題に対しても協力して改善している。

設立当初は、出荷量が約1t、出荷額は約50万円であったが、令和元年度には出荷量4.4t、出荷額220万円と約4倍まで向上した。また、冷凍加工品開発による通年出荷の検討のほか、住民や県内の菓子店による加工品の開発・販売も行われている。

（２）生活・環境整備面

協議会へは、認定農業者から自給的農家等の小規模農家まで町内の多くの農家が参画している。8割以上が70才代以上であるが、栽培には毎日の管理作業が必要であり、この作業が健康維持に役立っている。協議会では旧村単位に連絡員を配置し、担当地区の会員との連絡調整を行っている。また、現地指導会等の各種行事をとおして、コミュニケーションが図られている。さらに、消費者からの「美味しい」という声が生産者の励みになり好循環を生み出している。

赤カボチャは高齢者施設や学校給食に提供され町民の食生活、食文化の一部となっているほか、大学生のファームステイの受入も行うなど都市交流を図っている。

新規就農者は、令和元年度までの5年間で5名おり、そのうちの3名が赤カボチャを経営に取り入れている。



協議会スタッフ

令和4年度 豊かなむらづくり全国表彰事業
東北ブロック受賞事例の概要

【東北農政局長賞】

地域で守り、未来に繋げる自然豊かな川づくり

○団体名 豊沢川^{とよさわがわ}漁業協同組合（代表理事組合長 佐藤^{さとう} 寛治^{かんじ}）

○所在地 岩手県^{いほりけん}花巻市^{はなまきし}

○むらづくりの背景・経緯

花巻市を流れる豊沢川は、アユ、ヤマメ、イワナ、サクラマス、ウナギなどの内水面水産資源が豊かな河川である。

豊沢川漁業協同組合は、昭和26年に設置され、豊沢川流域を対象に内水面水産資源の保護培養、北上川水系のサケ資源の増殖等を現在まで取り組んできている。

かつて、豊沢川の内水面の水産資源は、地域住民にとって生活の糧であったが、近年の生活様式の多様化等を背景に、河川と地域住民とのつながりが薄れてきている中で、本組合が中心となって各種取組を進めてきている。

○むらづくりの内容

（1）漁業生産面

内水面水産資源の保護に当たって、全国的な問題となっているカワウによる川魚の食害対策として、花巻市や地元猟友会と連携して、アユ等を食害するカワウの駆除や追い払いの取り組みを実施している。

また、サケやサクラマスなど、内水面水産資源の持続的な利用に向けた取組として、①「北上川鮭鱒増殖協会」との連携により、ふ化放流事業を実施し、サケの増殖を進めてきたほか、②「岩手県内水面水産技術センター」との連携により、本県固有のサクラマス資源の保全のための調査を行っている。

（2）生活・環境整備面

「豊沢川の環境を守る会」を本組合が中心となって平成28年に設立し、企業や土地改良区等と共同して「豊沢川クリーン作戦」として地域住民と連携して、清掃活動等による河川環境の保全に取り組んでいる。

また、将来にわたって河川に親しむ人間性の育成を目指して、地域における教育活動の一環として、花巻市内の小中学校への河川学習会の開催、河川生物調査や放流会を通じて、子供たちへ学習機会の提供や理解・愛着を醸成することに貢献している。



組合スタッフ等

令和4年度 豊かなむらづくり全国表彰事業
東北ブロック受賞事例の概要

【東北農政局長賞】

地域に根ざした歴史と文化の里 檜山

○団体名 のうじくみあいほうじん 農事組合法人アグリ檜山 ひやま (代表理事 やまざき かずひろ 山崎 和博)

○所在地 のしろし 秋田県能代市

○むらづくりの背景・経緯

ほ場整備事業を契機に平成15年に設立した集落営農型の農事組合法人「アグリ檜山」が、地域の中核的担い手として農地を集積し、保管理しているほか、地域伝統食の「桜山納豆」を題材とした体験学習やイベントの開催を通じ、農村文化の継承を図っている。

本地域は、県指定史跡の旧羽州街道松並木沿いの沢筋に位置しており、国指定史跡の「檜山安東氏城館跡」を中心として数々の史跡が存在している。こうした地域資源を活かし、「のしろ檜山周辺歴史ガイドの会」が案内や説明ガイドを行う「周遊ウォーキング」を開催しており、多くのリピーターを獲得するなど人気を博しており、交流人口の拡大に繋がっている。

○むらづくりの内容

(1) 農業生産面

アグリ檜山では、農薬の使用を抑え、環境に優しい「檜山米」を生産しているほか、大豆、ねぎ等の園芸作物にも取り組み、稲作偏重の営農体系からの脱却を図っている。

また、地元小学生を毎年継続的に受け入れ、大豆の種まき～収穫等の農業体験や桜山納豆づくり等の体験学習を行っており、地産地消や食育、農業・農村の多面的機能等に関する学習機会の創設に貢献している。

(2) 生活・環境整備面

アグリ檜山が「檜山地域まちづくり協議会」、「のしろ檜山周辺歴史ガイドの会」、「檜山茶保存会」と連携し、「歴史の里檜山 納豆まつり」、「檜山桜まつり」、「檜山こども冬まつり」のほか、北限の茶として知られる特産「檜山茶」の魅力を伝える「檜山茶手揉み体験」等の多彩なイベントを開催しており、多くの来訪者と活発に交流しており、地域活性化に貢献している。

多面的機能支払の活動でもアグリ檜山が中心的役割を果たしており、自治会・婦人会と連携して花苗を植栽するなど、地域の景観形成にも力を入れている。

また、アグリ檜山は、能代山本地域で第一号の集落営農型の農業法人として、他地域の模範となる活動を展開している。



アグリ檜山のスタッフ